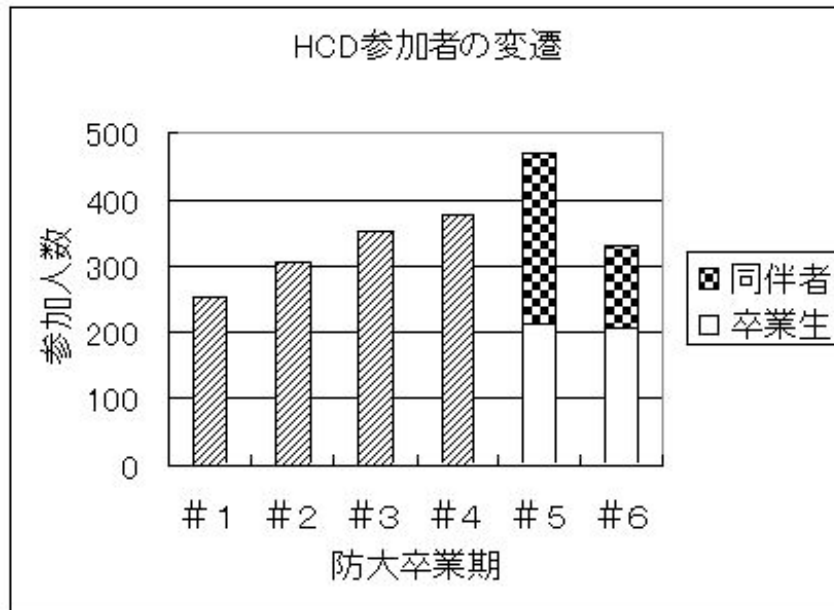


第6期生のホームカミングデー（HCD）

平成17年3月21日、防衛大学校本科第49期、理工学研究科前期課程第42期、同後期課程第2期、並びに総合安全保障研究科第7期卒業式典において、西原正防衛大学校長はホームカミングデーについて「・・・さらにこの式典には、43年前に卒業された大先輩の防大六期生の方々がホームカミングデーとしてご参列され、若い後輩諸君の門出を祝福して下さいます。・・・」と述べられています。

1 HCD参加数及び式場入場枠について

下図にHCD参加者の1期～6期までの変遷を示します。



防衛大学校からHCDに招待されるのは、原則として卒業生本人と夫人であります。式典会場が体育館から記念講堂に移行した関係で式場の収容人員が少なくなり、記念講堂に併設されているAV講堂（卒業式の模様を映像で）との2つがHCDの会場になります。式場の入場は、卒業生の父兄、職員、在校生及びHCDからなっています。しかも在校生は3年間で1回だけの参列しか出来ないそうです。

入場枠は、色々なバランスをとってHCD用には150席が割り当てられています。従って、残余の人は、AV講堂からの参加になります。映像での式典参加も悪くありません（アップでVIP、学生の顔が見られ、しかも奥様に小声での説明も出来ますし・・・筆者体験）。

2 6期のHCD及び期生会懇親会の実施状況

防衛学教室の正面入り口にて8時30分から受付開始、防衛学教室内の控え室で待機、9時10分頃から式場に移動しました。事後下図に示す様に清清と実施されました。計画にありませんが、夕方、卒業生の見送り行事にも参加し若き後輩を励まされた方も多くおられました。

この時の情景を若干掲載します

1	卒業式参列（記念講堂・AV講堂）	1000～1122
2	観閲式参列（陸上競技場）	1230～1305
3	記念撮影	1305～1315
4	期生会懇親会	1330～1500



6期生の勇姿—320余名の皆さん—（記念撮影-6期理事大窪氏提供）



懇親会における防大校長（6期早瀬氏提供）



式典開始前の一時（6期早瀬氏提供）

伸展する防衛大学校 {HCDで当時の面影を探して下さい}（#6HCDパソレットから）



3 6期生会長 高橋伸治氏からの寄稿（2005.5.12）注）

「ホームカミングデーの実施について」

去る3月21日に行われた6期生のホームカミングデー（HCD）行事は、卒業生（49期生等）の家族来校者数が予測を下回った為、6期生参加者（含家族）約320名全員が式典場内に参列出来るという偶然の好運に恵まれた。式典後の6期生主催懇親会には往時の指導教官にも御出席を賜り、又留学生第一号のチョンチェン君（陸・土木）も夫人共々、はるばるバンコックから駆け付け乾盃の音頭を取っていただく等、大いに花を添えてくれた。

6期の同行事に対する準備着手は、先輩各期に比し大幅に遅れ、10余名からなる役員会が発足したのは前年6月6日（6期総会）であった。しかし蓋を開けてみると役員各位の旺盛な熱意に支えられ滞りなく目的を達成する事が出来た。この間に開催した役員会議（市谷）は7回、防大や同窓会に対する挨拶や調整会議（小原台）は6回に及ぶが、それ以外にも各担当毎に個別の準備や調整に当たる等、役員各位の負担は並々ならぬものがあった。この間、我々6期として特に留意した事項はHCDの原点であった。即ちこの行事の目的は、卒業生の門出をOBが祝福し励ます点にあり、OBが勝手に自己満足する為の行事ではないという事であった。その為、卒業生やその父兄に迷惑をかけることのなき様、最大限の注意を払った積もりである。HCDの主旨や、あり方について、今回のケースを一つのモデルとして参考にいただければ幸甚である。

一方で今回の成功の背景には、終始、労を惜しまず前面協力してくれた母校、予測された式場外での実況放送見学者の為支援をいただいた陸自通信団、自らの教訓を懇切に申し送ってくれた5期の先輩各位、長期に亘り6期役員と一体になって尽力していただいた同窓会（小原台支部）等からの絶大な援護射撃があった事を強調したい。これらの方々に心からの御礼を申し上げる次第である。

注）寄稿文は直筆、原文のまま掲載